事　務　局　便　り

徹子の部屋　「徹子の部屋」に剛之さんが出演されます！！

剛之さんの復活までの過程の話やピアノ演奏（ﾄﾞﾋﾞｭｯｼｰ/月の光）があります。是非ご覧ください。
放映予定…10月25日（金）PM 1：20～1：55　テレビ朝日系列

剛之さんとお父様の共演が実現します！！

11月16日（土）19：00～　東京文化会館小ホールにて、梯剛之さんが、お父様もそのメンバーである弦楽合奏団アカンサスⅡと共演されます。ぜひ足をお運びください！
ご希望の方は下記枠内事務局までお申し込みください。

オーストリアでのテレビ放映ＤＶＤお分けします！！

梯さんが近況で語っておられるオーストリア国営放送で全国放映されたウォルフガング・ダヴィッドさんとのコンサート映像があります。
公の販売は致しませんが、12月のＪＴホールでのコンサートにさきがけ、50名の方々に1,000円でお分けします。ご希望の方は下記枠内事務局まで！

年会費（2,000円）更新方法の変更について

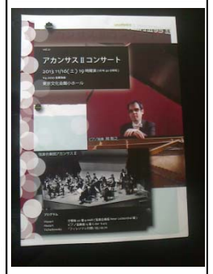
従来年会費更新は、一年経過後の入会月（前年更新月）にお願いしていましたが、事務合理化の為、今後年２回の会報発行時に一年以上経過した会員様に会費の振込用紙を同封させて頂くことにしました。ご協力お願いします。

サロンコンサート＆会員懇親会を開催！！

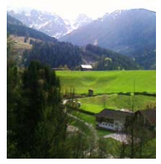
梯剛之さんのご希望で、会員の皆さまへの日頃の感謝の意を込めたサロンコンサートを開催致します。
＜開催要領＞
【日時】2014年1月11日（土）13：00～16：00
♥１時間の演奏の後、引き続き同じ場所で懇親会を行います。
【場所】東京都港区六本木1－7－27　全特六本木ビル１階デザインＫホール
【参加費】お一人/6,000円（懇親会費用含みます）60名様まで。

※先着順にて申し込み受け付けさせていただきます（**申込締切／2013年11月末日**）。
梯さんも楽しみにしておいでです。是非お誘い合わせの上お越し下さい。ご希望の方は、下記枠内事務局まで　FAX　或いは　**メール、葉書**にてお申し込み下さい。

PHOTO GALLERY



ｱｶﾝｻｽⅡｺﾝｻｰﾄ ﾎﾟｽﾀｰ



編集発行　2013年10月吉日
梯　剛之　オフィシャルファンクラブ事務局
事務局長　山中　重夫
〒192－0913　東京都八王子市北野台2－10－5
e-mail: s100yamanaka@gem.hi-ho.ne.jp
FAX　042-637-6489

HPもご覧ください。

http://kakehashi-takeshi.com/JA/index.html

Takeshi Kakehashi

Official fan club News letter　No.16

ご挨拶と近況　　梯　剛之

地球温暖化の影響で年々気温が上がり、今年は本当に暑さが堪える夏でしたが、漸く空気が澄んで気持ちの良い季節になってきました。
皆さまにはお元気でお過ごしですか。

僕も今ではすっかり健康を取り戻すことが出来元気な毎日を過ごしています。支えていただいた皆さまに心から感謝しています。

前回の会報以降、演奏活動は事務局からもご連絡いただいていますが、愉しい幸せな刻を重ねてくることが出来ました。中でも久し振りに戻ったウィーンには5月、8月ともに３週間ほど滞在して演奏会もし、のんびりもして来ました。この誌面では、その時のことをご紹介しようと思います。

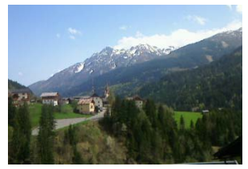
5月は、ヴァイオリニストのウォルフガング・ダヴィッドさんとデュオを組みケルンテン州のレッサタールというところでコンサートをしました。この町はイタリアとスロベニアの国境に近くウィーンの人がバカンスに良く来るペンションが点在する山の町です。ここで初日は子供達を、翌日は大人を対象としての演奏会でした。オーストリア国営放送の地方局ではこれを全部収録して全国放映したそうです。聴衆の皆さんは最初のモーツァルトのソナタの後にも立ち上がって拍手する人が数人いましたが最後のクロイツェルソナタが終わった時ほとんどの人が立ち上がって拍手してくれました。後で主催者のヴェルナーさんからは“今だかってこのように感動的なコンサートはなかった”と絶賛されダヴィッドさんと二人して本当に嬉しい思いがしました。

来る12月に東京虎ノ門のJTホールで演るデュオ・コンサートはここでの大好評をもとに、日本の皆さんに二人の音楽を聴いてもらいたいと思いダヴィッドさんを招聘したのです。暮れも忙しい時期ですが、是非皆さんに聴いていただきたいと思っています。

この演奏会の時のエピソードをひとつ。当日は国営放送で収録すると云うので、当然会場練習から機材を持ち込んでﾏｲｸﾃｽﾄ等をするNHKをｲﾒｰｼﾞしていたのですが会場練習をしている１時間前にも誰も現れず、これは中止になったかな？などと話していたらようやく40分前になってカメラマンが一人で現れ、やおらセッティング

目　次

Page 1
◆ご挨拶と近況（梯　剛之）
Page 2
◆近況(続き)
◆5月以降のコンサート ARCHIVE
Page 3
◆子供に伝えるクラシック任意団体立ち上げ報告（会長　加藤秀明）
ほか、関連記事
Page 4
◆任意団体活動報告
♥北広島市緑陽中学校
♥札幌大谷高等学校
◆昭和女子大学での講演
Page 5
◆最近の剛之さんに思う（東京／北海道　稲田俊介）
Page 6
◆ＦＣ北海道ｺﾝｻｰﾄﾂｱｰに参加して（神奈川　上海道竹重）
Page 7
◆初めて聞く梯さんのｺﾝｻｰﾄ（東京　孝本敏子）
Page 8
◆事務局便り
♥徹子の部屋出演お知らせ
♥チケット割引
♥2014年1月ｻﾛﾝｺﾝｻｰﾄ開催
・・・ほか



をはじめました。しかも開演15分前になってもほとんどお客様が現れず、前日の主催者との会食で“舞台の演奏者よりお客が少ないコンサートもあった”との話しがあって笑っていたのですが、これはそれと大差ないのかな、と、がっかりの気分でいたところ直前になってどっと集まってくれました。考えてみると東京でのコンサートと違って渋滞が全くないわけですから何も早く会場に来る必要もないわけです。日本の会場との色々な違いを実感しました。

8月は自身の用事もあってのウィーンでしたが、丁度僕の誕生日にぶつかり、こちらの知人(日本人6人、オーストリア人2人)が集まってハイリゲンシュタットの遺書を書いたとされるベートーベンハウスから程近いホイリゲ(自家製のワインを飲ませる居酒屋)で飲んだり食べたり、、ケーキまで用意があって皆で誕生日を祝ってくれました。　また仲間のオーストリア人が古いウィーンの歌をアコーディオン伴奏(店に所属する楽士が伴奏してくれる)で沢山歌ってくれてウィーン情緒を満喫できたのも嬉しいことでした。

この半年、沢山のご協力を得て、北海道から関西まで夫々の場で素晴らしい出会いを生む演奏活動が出来ました。また、その合間を縫って、「子供に伝えるクラシック」の任意団体を立ち上げました。その活動内容はこの会報で紹介していますが、前身となる“子供に伝えるクラシックＤＶＤ制作委員会”のこれまでのご苦労を無駄にしないよう、心を込めて小学校、中学校、高校と全国の学校の生徒さんたちに演奏とお話でクラシック音楽を伝えていく活動を継続していきたいと思います。会員の皆さまのご出身校やご関係のある小学校、中学校、高校など、声を掛けていただければ可能な限り出かけたいと思います。ご協力をお願いいたします。

これから寒い季節になります。皆さまにはどうか元気でお過ごしください。僕も頑張ります！

§5月以降の主なコンサートARCHIVE(国内)§

☆6月30日(日) 京都府　綾部市中丹文化会館 (主催　財団法人　京都府中丹文化事業団)
♫ﾄﾞﾋﾞｭｯｼｰ月の光／ﾓｰﾂｧﾙﾄ　ｿﾅﾀ11番／ｼｮﾊﾟﾝ　ﾊﾞﾗｰﾄﾞ3．4番　ﾉｸﾀｰﾝ2番／ﾘｽﾄ　ｿﾅﾀﾛ短調

☆7月　2日(火) 愛知県　宗次ホール (主催　宗次ホール)
♫ﾄﾞﾋﾞｭｯｼｰ月の光／ﾓｰﾂｧﾙﾄ　ｿﾅﾀ11番／ｼｮﾊﾟﾝ　ﾊﾞﾗｰﾄﾞ3．4番　ﾉｸﾀｰﾝ2番／ﾘｽﾄ　ｿﾅﾀﾛ短調

☆7月　6日(土) 滋賀県　琵琶湖ホール (主催　公益財団法人　琵琶湖ホール)
♫ﾓｰﾂｧﾙﾄ　きらきら星変奏曲／ﾄﾞﾋﾞｭｯｼｰ月の光／ﾍﾞｰﾄｰﾍﾞﾝ　月光／ﾉｸﾀｰﾝ2番、ﾊﾞﾗｰﾄﾞ3番／ﾘｽﾄ　ｿﾅﾀﾛ短調

☆7月13日(土) 北海道　北広島市芸術文化ホール (主催　ほろ酔いクラブ)
♫ﾓｰﾂｧﾙﾄ　ｿﾅﾀ11番、きらきら星変奏曲／ｼｮﾊﾟﾝ　ﾊﾞﾗｰﾄﾞ3、4番、ﾉｸﾀｰﾝ2番／ﾘｽﾄ　ｿﾅﾀﾛ短調

☆8月31日(土) 宮城県　栗原文化会館 (主催　財団法人　宮城県文化振興財団)
♫ﾍﾞｰﾄｰﾍﾞﾝ　ピアノ協奏曲第5番「皇帝」 with仙台ﾌｨﾙﾊｰﾓﾆｰ管弦楽団

☆9月　1日(日) 宮城県　岩沼市民会館 (主催　岩沼市民会館)
♫ﾍﾞｰﾄｰﾍﾞﾝ　ピアノ協奏曲第5番「皇帝」 with仙台ﾌｨﾙﾊｰﾓﾆｰ管弦楽団

☆ 9月　29日(日) 長野県　高根ふれあい交流ホール(八ヶ岳やまびこホール)
(主催　八ヶ岳音楽祭企画部、梯剛之北杜後援会)
♫ショパン：ﾊﾞﾗｰﾄﾞ全曲、ﾉｸﾀｰﾝ2、13番／ﾘｽﾄ　ｿﾅﾀﾛ短調

【お知らせ】この会報がお手許に届いたすぐ後になりますが、10月18日(金)19:00～於：宝塚ベガホールにて兵庫県宝塚市国際文化交流協会主催で**梯さんのチャリティーピアノリサイタル**が開催されます。
梯さんはﾄﾞﾋﾞｭｯｼｰ・ﾓｰﾂｧﾙﾄに加えｼｮﾊﾟﾝのﾊﾞﾗｰﾄﾞ1番～4番まで全曲演奏されます。残席僅かです。
連絡は会員の古家様(☎090－9993－1444)或いは直接国際文化交流協会まで(☎0797－76－5917)

§猛暑の続いた今年の夏でしたが、漸く9月の声を聴いて間もなくの1日、東京は汐留に建つ§
§モメント汐留　１階ガレリアにて、梯剛之さんのピアノ演奏とお姉さまのアイ子さんの絵§
§画展が開催されました。この“汐瞬音楽堂CONCERT”で用意された100席ほどは満席。近隣§
§のご勤務の方がﾎﾟｽﾀｰを見ていらしていたり、足を停めて聴き入っている姿も。多くの方　§
§が梯さんの音楽とお姉さまの絵画を楽しまれました。　　その時にお越しになった会員の§
§野崎様のご友人が梯さんのピアノと同時にお姉さまの絵にも感動され、今回筆を執って下§
§さいました。(事務局)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・§

☆梯ｱｲ子さんの作品☆

〈黄昏のMOMENTO/案内葉書〉

〈月の光〉

＜秋の水溜り＞

初めてきく梯さんのコンサート　　東京都　孝本　敏子

9月6日、初めて梯さんのピアノを生で聴きました。汐留でのコンサートに友人が誘ってくれたのです。梯さんのピアノの音のすばらしさ、彼のお話から感じられるお人柄、そしてお姉様、アイ子さんの絵・・・、間近かなフロアでくりひろげられる梯ワールドにすっかり酔いしれてしまいました。

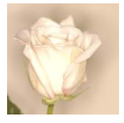
梯さんのピアノを初めてきいたのは、10年以上前でしょうか。テレビから流れるピアノの音がとても清らかで耳を留めました。それが梯さんでした。その頃、たまたま車で奥多摩に行く途中、「梯剛之ピアノコンサート」の看板を見かけました。「青梅市民会館」であったかと思います。青梅で、あの梯さんが・・、と心が動きましたが、車は一瞬で通り過ぎました。奥多摩の山で働く息子の所へ行く途中、今は亡き夫の運転する車での、ほんの一コマのシーンを改めて思いだしました。　昔テレビできいた梯さんの清らかな音は、今きく梯さんのピアノの音と重なりました。

コンサートの前に、アイ子さんの絵が会場に展示してあったので拝見しました。はじめ、凹凸のある絵にビックリしましたが、案内葉書に剛之さんが子供の頃に使った教材を思い出して作った、とあり納得しました。やわらかくあたたかな絵。その中に２つのピアノの絵がありました。ベートーベンの月光ソナタとドビュッシーの月の光。

そのドビュッシーの月の光がコンサートの最初の曲でした。梯さんのピアノは、言葉では表現できないのですが、やわらかく包み込むような、何とも言えない美しい音色でした。アイ子さんの絵「月の光」と通じ合うものがあるように思えました。音楽と絵がこのように通じ合っている、と思ったのは初めてでした。凹凸のある絵、ドビュッシーの月の光・・・、仲の良い姉弟、あたたかいご家族なのだなあ、と心が温かくなりました。

梯さんの曲をききながら、ふと思いました。芸術家とは、深く大きく人間を捉えようとしている人ではないだろうか、と。なぜこのようなことが頭をよぎったのかわかりませんが、梯さんの音の深さを感じたからかもしれません。あるいは、音楽の世界をあまりよく知らない私ですが、曲のスケールの大きさ、を感じていたのかもしれません。

日常の瑣事に心煩わされる毎日ですが、瑣事をふりきれるような気がしてきました。
元気に歩もう！と。



♥7月13日～15日　ﾌｧﾝｸﾗﾌﾞ北海道ｺﾝｻｰﾄﾂｱｰを実施しました♥

北海道北広島市での演奏会とＦＣツアーに参加して　　東京　上海道竹重

7月13日3連休の初日、12：30羽田発新千歳行きのＪＡＬ５１５便は、夏休みを涼しい北の町で過ごすと思われる多くの搭乗者や外国人観光客でほぼ満席の状態だった。

私たちＦＣ会員６名を乗せた飛行機は、予定通り午後２時過ぎに新千歳空港に到着、出迎えたピンク色のミニバスで剛之さんのコンサート会場のある北広島市へ。ほどなく到着した北広島芸術文化ホール（花ホール）はＪＲ北広島駅のすぐ目の前。入口を入ると加藤会長が別便で到着しておられて合流、見れば大勢の関係者のみなさんがお客様を受け入れる準備であわただしく動いておられる。私たちが驚いたのはその活気ある雰囲気、通常のコンサートでは見られないお客様をお迎えしようとするみなさんの熱意がそこかしこから迸っている。

ホワイエにはなんと赤白のワインまで用意され、何人かの人が美味しそうに口に含んでいる。高さ4~5mはあろう緑の樹木のオブジェ？はホール備え付けの物かと思っていたが、後になって床にビニールシートを敷いてみなさんが当日のコンサートのために準備された「作品」だと分かりびっくりした。チケットには「北海道初 復活リサイタルin北広島」と印刷されてあり、「山海亭ほろよいくらぶ」のみなさんの剛之さんに対する並々ならぬ「熱意」と「愛情」を強く感じたのであった。

コンサートはモーツｱﾙﾄのピアノソナタ１１番イ長調Ｋ３１１「トルコ行進曲付き」から。「北海道初」を心の底から楽しんでいるかのように軽快な演奏が続く。気心知れた剛之さんの後輩という稲田さんが、分かり易い解説とスマートな身のこなしで剛之さんをエスコートされる様子を見て、ＦＣ会員みんなで安心するやら感激するやら。

コンサート終了後、「ほろよいくらぶ」のみなさんが会場の後片つけをするのを待って、懇親会にＦＣのメンバーもお招きいただけるとのことで一緒にバスに乗って会場に向かう。車内では初めて「ほろよいくらぶ」のみなさんとお近づきになり、どこから来たか？剛之さんとの出会いは？などフレンドリーな会話で盛り上がる。北海道の方達は素敵だなと思った。

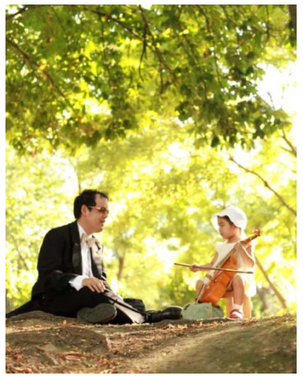
会場のホテルクラッセはゴルフ場に面した所にあり、窓からの眺めは緑一色、何と爽やかなこと！稲田さんの司会でメンバーの紹介や（中には学校の先生やお寺のご住職もおられて楽しいお話で盛り上がった。）剛之さん、お父様のご挨拶、そして私たちＦＣの会員も紹介していただき楽しい時間を過ごした。素晴らしい「山海亭ほろよいくらぶ」のみなさんと別れを惜しみつつも、再会を約束してバスに乗り、手を振りながら札幌市内の京王プラザホテルに向かう。

翌14日は旭山動物園へ、朝早くバスが出るというので８時半には剛之さんとお父様が合流、昨日と同様のピンク色のバスでいざ出発。さすがに北海道は広い！札幌から旭川まで約130キロメートルを走り11時過ぎに到着。人気の動物園だけにけっこうな人出で賑わっていた。まずは「ととりの村」へ、施設全体を網で囲んだ大きなゲージの中に入るといろいろな鳥の鳴き声が聞こえる。鳥の声にも敏感に反応される剛之さんが印象的だった。「ペンギン館」では剛之さんが大小さまざまなペンギンの模型に触って、フンボルトペンギンやコウテイペンギンの大きさに感心されていた。園内で食べた地元の牛乳でできたソフトクリームは格別の味。帰りは旭川市内で和食弁当をいただき一路札幌に戻った。

剛之さんとお父様は明日以降のイベント準備のためホテルへ帰られて、私たちは札幌の夜を楽しむべく「すすきの」のレストランへ食事に出向く。ビールの旨さに思わず「＊＋＆％＝～」（言葉が出ない!）

最終日は小樽へ観光に。ここでチョッとしたアクシデントが・・今問題になっている北海道ＪＲ、心配していた車両事故に出くわした！が、それをものともせず１時間遅れで小樽へ。運河や北一ガラス、大正硝子店を訪れる。ＦＣの仲間と新鮮な「小樽鮨」を味わいそれぞれ買い物や写真撮影を楽しんだ後、列車で新千歳空港に向かい帰途に着いた。

（写真：中村政江）



子供に伝えるクラシック

任意団体　“子供に伝えるクラシック”始動！！

梯剛之さんは、ピアニストとしてばかりでなく、音楽や自分の生き方を通して広く社会に貢献したいとの大志を持ち、数々のチャリティリサイタルや寄付活動、国内外の被災地慰問コンサートなどを行っております。

2005年に立ち上げた「梯剛之DVDプロジェクト子供に伝えるクラシック」では、制作委員会が組成され、モーツァルト、シューベルト、ベートーヴェンのDVD３部を制作、全国24,000の小学校・特別支援学校に寄贈し各方面から大変な反響を得ております。そのプロジェクトは完結、解散しましたが、今回、その趣旨を引き継ぐとともに冒頭に掲げた大志実現に向けて、新たに非営利活動任意団体「子供に伝えるクラシック」を設立し、7月19日に第一回の運営委員会を開催しました。

事業の内容としては、国内外を対象として
①小中学校、特別支援学校を対象とした生徒たちへの芸術の振興および健全な成長に寄与する事業
②被災者の心のケアに寄与する事業
③心身に障害を抱える子供たち及び関係者の心のケアに寄与する事業を行います。

主として学校や被災地でのコンサート活動が中心となりますが、ピアノ演奏やスピーチを通し、彼の音楽や人生にじかに触れることで生きる勇気や感動を受けてもらい、また災禍に傷ついた被災者に対しては心のケアに役立ててもらおうとするものです。

代表は梯剛之(以下敬称略)、副代表に梯孝則、運営委員長に加藤秀明ﾌｧﾝｸﾗﾌﾞ会長、別に運営委員5名、監事１名（公認会計士）、加えて、既に解散した「子供に伝えるクラシックＤＶＤ制作委員会」委員長であった猪口勇氏には顧問を引き受けて頂きました。また、同委員会からは決算繰越剰余金を引き継いでおり、これにﾌｧﾝｸﾗﾌﾞ関係で販売するCD、ＤＶＤ売上の収益金や寄付金等を加えて活動原資とする予定です。

また、梯さんはご自身の演奏活動と並行してこの活動を実施されるため、コンサートなど演奏会先の周辺にある学校などで実施できることが無理なく活動を継続できる鍵か、と考えております。会員の皆さまの母校やご関係先など、希望される学校がありましたらその情報を事務局までお知らせ下されば幸甚です。

ファンクラブの皆様におかれましては引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。　（事務局）

“子どもに伝えるクラシック”ご寄付について

梯さんが代表となって活動を開始した“子どもに伝えるクラシック”へのご寄付を呼びかけております。
いただきましたご寄付は、交通費など実質活動経費として有効に使わせていただき、毎期末（各年３月末）を以て１年間の収支報告書を作成し、会報及びＨＰ上に掲載報告致します。
【振込先　三井住友銀行　国立支店　普通預金　No.8043907　名義：子供に伝えるｸﾗｼｯｸ　代表　梯剛之】

北海道新聞　2013年（平成25年）6月11日（火曜日）

盲目のピアニスト 梯さん 生徒に勇気

負けを恐れないで。挑戦の先にいつか光

友人の母校 緑陽中で公演

【北広島】東京在住の盲目のピアニスト梯剛之さん(36)が10日、緑陽中(大野厚校長)でコンサートを開いた。全校生徒163人と地域住民約130人が、まろやかな音色と、心の病で一度はピアノから離れた梯さんが語る「どんなに暗かろうとも、負けを恐れないで、その向こうにいつかは必ず希望と光を見いだすことができる」という言葉に聞き入った。（上岡優江）

コンサート開催は、梯さんが緑陽中出身のピアニスト稲田俊介さん(34)=東京在住=と留学先のウィーンで出会い、交流を深めてきたのがきっかけ。

梯さんは、来賓の時（シューベルト）などアンコールも含め6曲を披露し、会場をまろかな、時に情熱的な音色で包み込んだ。稲田さんとジョークを交えたやりとりで、笑いも誘った。

生徒代表の古崎未紗さん(1年)が演奏するシューベルトの即興曲第3番」に、「言われた通りではなく、『嫌だ、私はこう弾きたい』って表現してもいいんだよ」などとアドバイスする一こまも。弾き直すことに古崎さん自身が「こんなに自分でも変わるんだと感じるほどだった」。

梯さんは、ピアノから離れた「どん底」の状況から音楽に救われたと述べ、「解決策は いろいろある。負けを恐れないで、追い詰められて限界になったときはクールダウンして、一歩下がってまた挑戦してほしい」と呼びかけた。

コンサート後、生徒会長の古田蒼人君(3年)は「いつも機会で聞くのと同じピアノなのに音が違った」と、クラシック音楽を身近に感じた様子。「高校受験とか壁にぶつかった時は梯さんの言葉を思い出したいと話した。

緑陽中の生徒にワンポイントレッスンする梯さん(右)。右は友人の稲田さん

☆2013年6月10日　北海道北広島市立緑陽中学校における活動（北海道新聞）☆

“子どもに伝えるクラシック”　活動のご報告

7月13日の北海道北広島市でのリサイタルを企画された、梯剛之さんのウィーン国立音大の後輩、稲田俊介氏が、同時に子供たちにも聴いて欲しい、と、ご自身の出身校で、また別に札幌大谷高校からのその音楽科の生徒たちに聴かせたいとのご要望を受け活動が実現。その稲田様に記事をいただきました。（事務局）

6月10日　北海道　北広島市立緑陽中学校

（全校生徒さん160名、先生方及び父兄の方々150名がご参加）

＜演奏曲＞☆シューベルト：楽興の時第3番　☆ショパン：幻想即興曲
☆ﾄﾞﾋﾞｭｯｼｰ：映像第１集「水の反映」「ラモーを讃えて」「運動」

生徒さんも父兄のみなさんも初めて観聴きする梯さんのピアノに圧倒され、やがて深い感動を呼びました。体育館での演奏会でしたが、“このピアノから聴いたこともないようなやさしく深い音”（音楽の先生）が聴く人たちの心の奥底まで響いたのでしょう。トークの時間ではウィーンの思い出や音楽に救われた人生だと語り、「負けを認めて再スタートすればよい」と、自身の体験をもとに、決して上から目線ではなく、同じ立場で語った梯さんの話に皆、大変感銘を受けた様子でした。

更に今回は活動初めてのこととして、ピアノを勉強している生徒さんへのﾜﾝﾎﾟｲﾝﾄﾚｯｽﾝを試みました。“自分がこう弾きたい！と思うように弾いていいんだよ”という意識面の事など交えて指導をしましたが、レッスンを受けた古崎さんは、こんなに変われるなんて！とびっくり。愉しくレッスンを終えました。

最後は皆でBELIEVEの合唱です。梯さんの伴奏で、梯さんの音楽と生徒さんが文字通り一体になれた時でした。これは生徒さんたちの心に魂の躍動感としてダイレクトに伝わって、とても感動的な活動になりました。

7月16日　北海道　札幌大谷高校　音楽科

（全校生徒さん及び先生方と関係者の方々200名がご参加）

＜演奏曲＞
☆ドビュッシー：映像第1集「水の反映」「ラモーを讃えて」「運動」
☆ショパン　　：ノクターン2番＆13番、バラード2番、3番
☆リ ス ト　　：ロ短調ソナタ

ピアノ科の先生からの「是非あの音を生徒に聴かせたい」という強い思いから始まったのが大谷高校コンサートです。音楽系の大学進学を目指す音楽科を擁するだけあって、写真にあるように本格的ホールを備えている学校です。

会場では皆その音に聴き入り、アンコールのコンソレーションでは、感動で涙を流している方々もたくさん居られる素晴らしい演奏会になりました。

今回は二つの学校の生徒さんたちにクラシックへの想いを伝える活動に参画し、自分自身も感動しました。　今後も折に触れてこの活動を支援していきたいと考えています。

昭和女子大学　女性教養講座　“私の人生、私の音楽”　演奏を交えながら講演をしました

6月26日（水）昭和女子大学　人見記念講堂にて

昭和女子大学が毎年開催する学生さん向け教養講座に梯さんが講師として招かれました。1,000名に近い学生さんが参加され、梯さんは、一度はピアノから離れるほど苦しい時期を乗り越えてきたご自分の、これまでの人生の軌跡をピアノ演奏を交えながら語りました。（写真は、舞台上の梯さんと、金子ソナーレ代表）

北広島　ポスター

北広島市立緑陽中学校で剛之さんをサポートする稲田さん

今、剛之さんに思う　　稲田 俊介

2012. 11　ｵﾍﾟﾗｼﾃｨ

昨年11月、東京オペラシティホールで行われたコンサートは、あまりに「衝撃的」でした。

衝撃的と書くと、なんだか大きな力が物理的に勢い良く働くイメージを持たれると思いますが、剛之さんの演奏は、知らない間に心の中に入ってきて、それがいつの間にか涙となって溢れ出てくる、そんな魔法のような力を持っていました。30半ばの男がおいおいと涙を流すのはなんとも不格好な話ですが、包み隠さず言うとそういうことでありました。と、同時にこの感動をひとりでも多くの人に届けたい。いや、届けなければいけない！と、勝手ながらそんな想いに掻き立てられ、興奮冷めやらぬまま帰宅後、すぐに北海道北広島市に住む両親に電話しました。北海道の方々に是非、剛之さんの演奏を聴いて貰いたいとﾘｻｲﾀﾙの開催を提案したのです。私の両親は定年退職後、長年の夢であった蕎麦居酒屋「山海亭」を市内に開業し、音楽好き仲間と共に「山海亭ほろ酔いくらぶ」なるものを設立。『北広島を音楽の街に』をスローガンに、年に数回コンサートを主催しています。そんな経緯もあり今回の提案ももちろん快諾です。翌日から早速「梯剛之ピアノリサイタルin 北広島」実現に向けてプロジェクトがスタートしました。

そしてこの夏の7月13日、コンサート当日。剛之さんの北海道リサイタルは実に2006年以来で、集客に一抹の不安はあったものの、いざ蓋を開けてみるとコンサート会場の北広島芸術文化ホールには、道内各地より子供さんからお年寄りまで、ほぼ満席の400名を超えるお客さまに足を運んで頂きました。演奏が始まって間もなく、私はお客さまの表情の中に、ある「異変」を感じました。奏でられる一音一音に、呼吸をする動作すら忘れてしまうほど耳を傾け聴いている。そして、その表情には、何か新しいものを「発見」したかのような、そんな印象を受けました。プログラムは、モーツァルトのトルコ行進曲付ソナタからはじまり、ショパン・ノクターン2番、バラード3番＆4番、そして最後はリストの大曲ピアノソナタ・ロ短調。舞台袖で聴いていた私は、プログラムが進むにつれて、もっと聴きたい思いと、演奏会が終わってしまう寂しさの両方が合交わる複雑な思いでしたが、剛之さんの音楽が緑溢れる初夏の北海道に響き渡るその瞬間に立ち会えたことに大きな感動を覚えました。

ところで、先ほど感じた「異変」と一体何だったのか。その答えは、終演後にあるお客さんが話していた言葉にすべてが隠されていました。「梯さんの音楽は、わからない人にもわかってしまう」。もしかすると、その「異変」とは、私が昨年11月にオペラシティで体感したあの「衝撃」だったのではないでしょうか。

私もウィーン留学時代、足繁く楽友協会に通い世界に名だたる名ピアニストたちの演奏を聴きましたが、このような演奏ができるピアニストはごくわずかだと改めて確認した思いで、興奮を禁じ得ませんでした。

話は戻りますが、お陰様で8年ぶりの北海道公演は大成功。その裏には、わざわざ遠い北海道までかけつけて頂いた加藤会長を始めとするファンクラブのメンバーの温かいサポート。いつもそばで剛之さんを支えるお父様。直前まで細かい調整をして頂いたソナーレ金子社長。文字通り屋台骨となって開催を実現した地元スタッフ。そして剛之さんの素晴らしい演奏が、一輪の花となって咲いた、そんな演奏会でした。

ところで、すっかり剛之さんの音楽とダジャレ炸裂の人柄に魅了された北広島のみなさん。今後は「毎年北広島でリサイタルを」と、「梯剛之ファンクラブ北海道支部」を立ち上げる動きもあるようです！

剛之さんにとっても恩師のヴァイスハール先生（中央）

最後に私事ですが、ウィーン留学時代、腱鞘炎でピアノを弾くことができない、どん底の時期の私を心配して声をかけてくれたのが剛之さんとお母さまでした。憧れであったヴァイスハール先生をご紹介頂き、脱力による打鍵、奏法を一から徹底的に教え込まれました。通常一度腱鞘炎を患うと、完治はほぼ無理。一生付きまとう、ピアニストにとっては悪魔のような病気ですが、私の場合は驚くことに徐々に回復。2年ほどのリハビリ期間を経て完治に至りました。

私にとって剛之さんは「先輩」であると同時に、まさに「音楽の恩人」です。このご恩は、やはり「音楽」を通してお返ししていきたいと思っております。「一生音楽」「音楽のある人生」を合言葉に、明日からまた頑張ろう、と決意を新たにしています。